

*****2007.5.9*****

CGL NEWS II Vol.12

Conference on Green Logistics in Japan

<http://www.logistics.or.jp/green/>

『CGL NEWS II』は、第2期ロジスティクス環境会議メンバーの方々を対象として、環境会議の活動状況と行政動向に関する情報提供を発信して参ります。

<目次>

- 1 6月1日開催 物流改革シンポジウムの御案内
(主催: 物流改革シンポジウム2007実行委員会)
- 2 IPCC第3作業部会第4報告書の概要の公表について

「物流改革シンポジウム
環境時代の物流改革 ～欧米先進モデルと日本～」のご案内
(主催: 物流改革シンポジウム2007実行委員会)

わが国ではモーダルシフトが叫ばれて久しいのですが、本シンポジウムでは、モーダルシフトが進展したか検証し、トラックと鉄道を結ぶためのインフラ整備の必要性について検討します。

また、欧米の先進事例と日本との比較検証を行いつつ、環境を意識した将来的なモーダルシフトへの提言等についても議論をすすめていきます。

そして、CO2削減の個々の施策のあり方とともに、国民の合意による国家的施策として、いま日本はどのような方向に物流の舵取りをすべきかを念頭に置き、世界に向けた具体的なメッセージの発信を目指していきます。

■概要

- ・名称 : 「物流改革シンポジウム
環境時代の物流改革 ～欧米先進モデルと日本～」
 - ・主催 : 物流改革シンポジウム2007実行委員会
 - ・開催日時 : 2007年6月1日(金)
13:30～15:30(開場13:00)
 - ・会場 : 千代田放送会館(千代田区紀尾井町1-1)
 - ・参加料 : 無料
 - ・申込締切 : 2007年5月21日(月)必着
- ・開催要領、プログラム、申込、問い合わせ先等は以下HPでご参照ください。
<http://butsuryukaikaku.web.fc2.com/>

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書
第3作業部会報告書の公表について

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)とは、人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として1988年に世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)によって設立された組織です。

その中で、温室効果ガスの排出削減など気候変化の緩和のオプションについての評価を行う、第3作業部会の第9回会合が4月30日から5月4日までタイで開催され、地球温暖化の実態と今後の見通しについての最新の知見が報告書としてとりまとめられるとともに、政策決定者向け要約(SPM)がとりまとめられました。

今回、そのSPMの速報版が公開されました。記載されている主な概要は以下のとおりです。

- ・温室効果ガス全体として、1970年から2004年の間に約70%増加した。現状のままではいくと次の数十年も引き続き増加する。
- ・2030年を見通した削減可能量は、炭素価格が二酸化炭素換算で1トンあたり20米ドルの費用をかけた場合は、年90～170億トン(二酸化炭素換算)であり、炭素価格が100米ドルの費用をかけた場合は、年160～310億トン(二酸化炭素換算)である。
- ・2030年以降、気候変動の影響を6つのシナリオ(カテゴリー)にわけて示した。例えば、産業革命からの気温上昇を平均2.0度から2.4度の範囲にとどめるとなると、2050年の二酸化炭素排出量を2000年比で85%～50%削減が必要。

詳細は下記を御参照下さい。(経済産業省プレスリリース)

<http://www.meti.go.jp/press/20070507001/20070507001.html>

SPMの日本語訳は、5月末を目処に地球産業文化研究所ホームページ等において公開予定となっております。

*****CGL NEWS II 配信について*****

- 本メールは第2期ロジスティクス環境会議
代表登録者・連絡窓口・研究会・委員会にご登録いただいている方に
配信しております。(メールの登録のある方のみ)
 - 発信元: 社団法人日本ロジスティクスシステム協会
 - お問い合わせ、配信停止・変更は: cgl@logistics.or.jp
※各委員会に対する質問、要望等も上記アドレスにお願いいたします。
- (C) CGL NEWS All Rights Reserved.
